

中国（北斗）とロシア（GLONASS）の衛星航法システムの統合

漢和防務評論 20151030 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中露間で、衛星航法システム統合の動きがあるようです。技術面はともかくコスト面でペイするのかが疑問です。政治的な宣伝としては効果が大きいですが。中国製兵器の中には、無断でGPSやGLONASSを使っているものがあるようです。民用版なので有事には使えませんが。

KDR 平可夫パリ特電：

ロシア聯合宇宙開発集団の権威筋は、KDRの取材に対して次のように答えた：中露は、今年5月から、2回以上接触し、ロシアの民用版GLONASSシステムと中国の北斗航法衛星システムの統合の可能性に就いて討論した、と。ロシアの高級消息筋は：”交渉は2つのレベルで行われている。最初は協力方式に就いて討論した。現在は、主として民用版GLONASSシステムと中国の北斗航法衛星システム信号の共同使用の問題について討論している。統合された場合、航法衛星の数が50個を超えることになり、GPSシステムに比べて密度、精度とも更に高度な衛星航法システムが出来あがる。第一段階は、我々が中国及びロシアにそれぞれ1個受信局を建設し、その後逐次受信局を増やして行くことになる”と述べた。

KDR：我々の理解では、将来、この協力が軍用衛星航法システムまで拡大すると見ているがどうか？なぜなら、NATO国家群と同様に、中国は、GPS誘導兵器等を含め、相当多くのロシア製武器を使用しているからである。

権威筋（本誌記者とは十数年前から知り合い）：貴方は軍事記者である。当然、貴方の考えで書いてもよい。私が強調したいのは、現段階では、我々は、民用版航法衛星の協力問題を討論しているということだ。貴方の質問は、理論上、当然存在する方向ではある。しかし、これは我々が決定できる問題ではない。両国の政治当局者が討論すべき問題である。

KDR：もし将来、GLONASSと北斗の軍用版が真に統合された場合、その軍事的意義は巨大であり、事実上、中露の軍事同盟が一步踏み出すことになる。これは、聯合情報戦争（JOINT INFORMATION WAR）には不可欠である。

権威筋：これは貴方の結論及び推測である。今年、討論しているのは民用版の統合である。

KDR：このため、双方は海外の受信局を増やすのか？

権威筋：**GLONASS** はすでに海外に多くの受信局を持っている。北斗は持っているのか？我々が中国とロシアに聯合受信局を建設すると、当然これらの **GLONASS** 海外受信局の信号を受信することが出来る。我々は、聯合して海外に **GLONASS** /北斗受信局を建設する計画はない。

KDR は、北京電子技術及びレーダー展覧会において、中国軍用の衛星航法受信器がすでに北斗/GPS 或いは北斗/GLONASS、更には北斗/GLONASS/GPS 受信が可能であるのを何度も発見している。当然、民用版であるが。なぜならウクライナ東部危機によって、中露の政治的関係が大々的に強化されたからである。聯合誘導衛星受信局の建設、及びワイドボディ機の共同開発の動きは、この具体的な現われである。しかも戦略的協力の領域は、大幅に増大している。

以上